

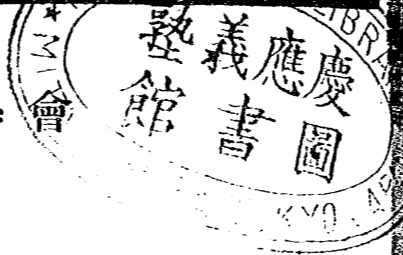
Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.11 (1954. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19541101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾經濟學會
十一月號



- 投入——産出模型について……………大千熊種一義郎人(一)
- ローマの農政……………宇尾野久(二)
- Cicero, de lege agraria*を中心として——
- 資料
- 労働者意識について若干の問題(下)……………青沼吉松(三)
- 四工場の調査を素材として——
- 書評及び紹介
- 經濟學關係文献目錄

第四十七卷 第十一號

MITA GAKKAI ZASSHI (Mita Journal of Economics)

Vol. 47, No. 9 • 10 October 1954

CONTENTS

	Page
Theoretical Problems of Monopoly and Small Business T. Ito (1)	1
Logical Foundation of Practical Value-Judgement...S. Tomita (24)	24
Economic Effects of Resale Price MaintenanceI. Kataoka (54)	54

Material

Mojuro Sugimoto as the Founder of Commercial Monopoly at Edo Y. Ito (84)	84
---	----

Review and Note

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio-Gijuku University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 140 Yen net

書評及び紹介

羽鳥卓也 「近世日本社會史研究」	尾城太郎丸(六)
新澤嘉芽統著 「農業剩餘價值形態論」	常盤政治(四)
古川榮一著 「財務管理組織」	和田木松太郎(六)
國際決済銀行編 首藤清譯 「スターリング地域」	白石孝(六七)
A・H・ハンセンイ 「貨幣理論と財政政策」	安井孝治(六)
イ・ロクシン著 ソヴェト工業書刊行會譯 「ソヴェト工業發展史」	加藤寛(五)
J・ネイマン 「確率・統計學の第一歩」	佐藤保(七)
J・ロビンソン 「マルクス再讀」	大熊一郎(七)

投入—産出模型について

千種義人
大熊一郎

一、基本的模型

投入産出模型は一般均衡理論の經驗的應用の圖式としてレオンチェフによつてはじめて作成されたものであるが、
現在産業間取引乃至派生需要の綜合組織の究明に當つて、近代經濟學が提供し得る殆んど唯一の一般的實驗裝置を提
供しているの觀がある。

元來、投入産出模型は一定の生産構造の下で所與の最終需要 (final goods) をまかなうに要する産業間の財貨の
流量を確定するシステムである。この意味で投入産出の全體系は純粹に技術的に確定され、主體の合理的行爲の公準
は所與の最終需要として體系外から與えられるものと見なすことができる。レオンチェフの模型の意義は主體の合理
的行爲に基づく最適條件 (optimality) から自由な經驗的圖式であるところに存する。

しかし、このような經驗的圖式から現實に關するならかの判断をひき出そうとするならば、合理性の公準から自
由であるというそのこと自體のために、なにごとくも判断しえない結果となる。なぜならば、投入産出模型は均衡につ